

ディヴィッド・グレーバー・インタヴュー

「チャーリー・ローズ・ショー」(PBS)

David Graeber on Charlie Rose Show http://www.youtube.com/watch?v=QUM5WfO60AA

○グローバリゼーションは悪しき思想なのですか?

●とんでもない、ほとんどのアナーキストたちは、彼らが対抗している人たちよりず っとグローバリゼーションに好意的だと思います。

○どんな人たちより、ですって?

●彼らが対抗している人たちです。いかなる意味においても私は、IMFや世界銀 行が、グローバリゼーションに特に好意的だとは思ってません。仮に、グローバリ ゼーションとは、国境を失くしてしまうことであり、人間とモノが自由に移動するこ とだと考え、そう定義するなら一

○よい思想だということ?

●そう、すばらしい思想だと思いますよ。むしろ私が云いたいのは、アナーキスト たちは、国境がまさに存在する、というそのことに反対してるのだということです。 もし彼らが国民国家なんてものを信じていれば、そうはしないでしょう。同時に、グ ローバリゼーションのなかで実際に起きていることに目をやれば、まず、人の自由 な移動なんてどこにも見当たらないでしょう。NAFTA(北米自由貿易協定)の締 結以来、合衆国とメキシコの国境警備は三倍になってます。これは彼らがグロバ リゼーションと呼んでいるものが実際に機能してしまっているせいではないでしょ うか。それは人々を今いる場所に縛りつけるものです。そこで彼らは人々から社会 保障をとりあげ、互いに安売りしなくてはならない絶望的状況をつくりだす一方で 、企業には利益をあげるための自由な移動が認められています。これは本当のグ ローバリゼーションではない、と私たちはそう考えています。

○アナーキーに未来はあるでしょうか?

●あると思います。いま私たちは非常におもしろい歴史の局面に立ちあっていると 考えています。いろんな意味で私たちは、100年前に起きたことの方へ逆戻りを しているようです。かつてのアナーキズムの時代について考えてみてください。 1870年代や1880年代、そして1890年代です。基本的には、第一次世界大戦 までの時代です。それは比較的、地球が平和だった時代で、まさにグローバリゼ ーションの時代というべき時代でした。1901年に誰かが書いたものですが、それ を読むと、当時の人たちはこんなことを云っています。

「どうも近頃、このパスポートとかいうものを、どこで使うものだったか思い出せなく なってしまったよ」。人びとは国境でパスポートを見せなければならなかったので すが、人びとはもっと自由にあちらからこちらへと移動し、文明化した国同士の戦 争など、過去の話だと思われていたわけです。そしてこの時代のアナーキズムは 、ある種の想像力をもった革新的な左派の中心となっていたのです。そこに突如 として、世界大戦が勃発します。それは歴史上、最も愚かな戦争の一つの典型と して、世界のあちこちで起きました。このへんのことにはあまり詳しくないのですが、 アナーキズムは突然そこで姿を消してしまい、マルクス主義があらゆるところに出 現してきて、アナーキズムよりもまともなものだと思われるようになりました。その 理由について考えると、私にはこう思えるのです。二〇世紀というもの、そう、多く の歴史家たちは二〇世紀とは1914年頃から1991年までだと考えています。彼 らは「短い二○世紀」と呼びますが、二○世紀とは人類の歴史のなかで「最も暴 力的な世紀」でした。それは世界戦争を戦うこと、もしくは、それに備えることに明 け暮れました。たしかにそうした時代には、アナーキズムはあまり現実的なものだ とは思われてなかったでしょう。なぜなら、アナーキズムは、機械化された巨大な 殺人兵器である軍隊というものをつくるのには決して向いていないからで、それが 私たちがアナーキズムを信頼するゆえんです。

●かたやマルクス主義体制にとっては唯一それが得意とするところでした。すごくうま かったんです。ところが1989年から1991年にかけての壁の崩壊とともにそれらの政 権が崩壊し、突如として、かつての時代に舞い戻ったみたいになります。工業国どうし の戦争などあり得ないと思われていた1890年代に戻ったかのようです。グローバリゼ ーションが再びやってきて、アナーキストたちが戻ってきたのです。ある意味、これはす ごく可笑しいことですよね。だって90年代にはみんな「歴史の終わり」について語って いたわけで、「これは歴史の終焉であり、以後は何も変わらないだろう」って云われてた わけですから、これは…

○それに関して唯一私が知ってるのはフランシス・フクヤマですが…

●誰でも彼の云ったことを復唱できますよ。彼らがいつも私たちに告げてた、あのフレ ーズをね。ところが、いまや事態は正反対になっています。歴史は狂ったように加速し ています。同じことが起きているのですが、スピードがずっと速いのです。あの時代が やってきてるのに、ほんの5~6年かそこらしか続かず、それから突然、地球はパニック に陥ったかのようです。つづいて大規模なインターナショナル・ムーヴメントが起きまし た。これは心情的なアナーキズムです。人々の大半がアナーキストではないにせよ、こ の思想はアナーキズムから出てきたものです。1890年代や1900年代のようにです。 それに対して彼らは何をしてるでしょうか?彼らは戦争を開始しました。誰を相手に戦 争するかはたいしたことではなく、戦争をすることが必要なんです。それが、いわゆる ナショナリズム的な感情と呼ばれるものを抑止するという口実を手に入れることので きる唯一のやり方なのです。しかし長期的な展望に立てば、私はそうなるとは思って いません。新たな75年戦争の時代に突き進んでゆくとは思っていません。世界を吹き 飛ばすことなしにそれが可能だとはまず思えないからです。

○テクノロジーがあるからそうはならないと。つまり、あなたは未来に対して楽観的なの ですわ?

●ええ、そうです、私はとても楽観的です。つまりいま私たちが目撃しているのは、こう なることを全く予測できなかった世界のエリートたちのパニック反応だと思っています 。いまとなっては90年代半ばのあの語り口を思い出すのは難しいことです。2000年に 戻って云えば、私たちは「ワシントン・コンヤンサス」を廃絶するには10年くらいかかる だろうと考えてました。そのムーブメントの中にいた人たちは…

○「ワシントン・コンセンサス」とは何でしょう?

●本質的にいえば、あらゆる歴史的な問題、経済的な問題、政治的な問題はすべて かたづいたとする考え方です。これから私たちはある種の制限された議会制民主主 義を採っていくでしょうが、政府当局者たちは決して経済政策を転換しようとはしない でしょう。国際通貨基金や世界銀行のような非常に大きな力を持った組織が存在し、 別の世界ではネオ・リベラリズムと呼ばれています。

〇ちょっといいですか。

●ええ、どうぞ。

○インターネットのインパクトが加速しているということについてですが、

○これは明らかに国際的な現象ですね。

●まったくその通りだと思います。

○インターネットのインパクトが加速してきたのは、ここ10年か11年そこらのことです。 たしか95年頃からだったと思います。ここで云いたいのは「ネットスケープ」や「ウェブ・ ブラウザ」といったテクノロジーの革新のことです。サーチエンジンと、そこから噴き出 てきたもののすべてが、非常に短い期間に、私たちの想像を超えて加速しています。

●おっしゃる通りです。一体それが何を示唆してるのか見当もつきませんが、アナーキ 〇つまり、そうすれば、おしまいだということですね。 ズムのような何かを私たちの視野に入れることが重要だという、その理由のひとつが それです。なぜならそれは、世界を再想像し、異なった関係性を再想像しようとするも のだからです。ひとつ分かっているのは、歴史はとても速く動いてるということで、ものご とは変化しています。現在のようなタイプの資本主義は100年も存在しないでしょう。 ○100年後にどのような資本主義が存在していると思いますか?

●現在のものとはまったく異なる、いや、よく分かりませんね。

○つまり資本主義が消滅するからですか?あるいは?

●まったく分かりませんね。

○資本主義は…

●資本主義について分かってることは100年前のことだけです。

○資本主義は、より大きなもので、良いもので、しかも強力…

●やはり分かりませんね。これはあくまで資本主義についての私の考えで、200年前 の世界は信じられないくらい違っていたし、100年前の世界も非常に違っていた、 私たちは…

○25年前もずいぶん違ってました。

●その通りです。何であれ変化の速度はアップしてます。

○まったくです。変化は加速しています。

●ええ。

○変化のスピードは急上昇しています。

●つまり、そう、こうした質問に答えることができると想定すること、つまり、人類の可能 性は限られているという想定は、バカげていると私は思います。私たちはこの100年で 世界がどんなふうに進んでゆくのかをただ推測するだけですが、人びとにインスピレ ーションと方法を示すオルタネティヴの、その前向きな実例をつくるように努めなけれ ばなりません。分かっているのは、それが変化につながるということだけです。ただ問 題はその変化が良いものなのか悪いものなのかは分からないということです。

○最後にもうひとつ、これから何をされますか?

●私がですか?

○ええ。

●来年ですか?

Olthi

●イエール大学は大学を辞職することを条件に私に1年の有給休暇をくれましたので

○おかしな話ですね、あともう少しだけ話してもいいですか。あなたに誓って云います が、私は大学に電話して、なぜ契約更新を望まないのかを調べたいくらいです。

●何に誓ってですって?

○あなたにです。なんなら視聴者の方たちに誓ってもいいですよ。それは私がある種 の権力を持っているからではありません。でも、あなたが真相をつきとめたいのなら、そ れは可能です。あなたはそれに同意されないかもしれないし、こういうのは間違いだと 思われるかもしれませんが、調べれば分かるんですよ。

●仮に私がその理由を知っていたとして、それをテレビで話せますか?あなたはその 教授たちのことを悪く云えますか? それはタブーでしょう。

○つまりあなたがやったのは、教授たちの批判ですか?

●いえ、違います。批判はしましたが、私がそれをここでしゃべるのはもっとよくないこと です。

●おしまいですね。簡単に云うと学問の世界にはヒエラルキーがあり、それを畏れな ければならないのです。つまり人前では身をすくませていなければならないのです。私 は決して敬意を欠いていたわけではありませんが、身をすくませなかったのです。

○身をすくませるというのは、どういう意味ですか?

●それこそ、私のアナーキストたる由縁です。他の人びとに対して完全なる免責や力 をおよぼすことのできるヒエラルキーの構造というのは、サド・マゾ的な精神の力学を つくりだすものです。

○アナーキストであるということは、権威に従わないというですか?

●いいえ、アナーキーというのは、アナーキストであるということは、権力に対して批判 的であり、権力がどこに存在するのかと常に問うことです。

○どこに権力が存在するかは、定義によるのでは。

●その権力が妥当なものかどうかを知るために、つねに権威を批判的にみてゆくので す。妥当な権力のかたちというものも存在しますが、権威それ自体を崇拝してはなら ないのです。

Oええ。

●ここで、自己破壊の権力を例にとってみましょう。権力それ自体の基盤をつき崩す、 ある種の権力というのが存在します。それらは非常に…(ヴィデオ終了)

[転記] ニワ・ミツル、ヘイリー・マクラレン

[翻訳] カガ・サエコ、ナカザワ・タカヒロ、イデタ・ケイジ、小田マサノリ



「the 29th Disney Action in Times Square」(2000年) Rev.Billy and Stop Shopping Gospel Choir